

教科	選択B	科目	国語常識	単位数	2	学年・コース	3年 進学・体育/選択者
教科書	数研出版「実践 国語常識・作文 ステップアップ」			担当者	藪田和弘		
概要・目標	就職試験及び大学推薦入試対策として様々な分野の問題に取り組み、試験対策はもちろんのこと、社会で必要とされる国語力を幅広く養成する。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	活動・評価			
	一学期	20	問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ●漢字・ことば ①漢字・熟語の読み書き ②漢字・ことわざ ③漢字・慣用句・故事成語 ④漢字・時事用語 ●敬語 ●文章読解 ●文学史 ●正しい表現 ①助詞・助動詞・副詞など ②誤文訂正 ●作文を書く ①自分をアピールする ②ディベート型作文を書く ③「環境問題」について意見文を書く ④「ボランティア」について意見文を書く ⑤資料を見て意見文を書く <p style="text-align: right;">(1学期中間考査) (1学期期末考査)</p>			
	二学期	24	問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ●漢字・ことば ①漢字・熟語の読み書き ②漢字・ことわざ ③漢字・慣用句・故事成語 ④漢字・時事用語 ●敬語 ●文章読解 ●文学史 ●正しい表現 ①助詞・助動詞・副詞など ②誤文訂正 ●作文を書く ①自分をアピールする ②ディベート型作文を書く ③「環境問題」について意見文を書く ④「ボランティア」について意見文を書く ⑤資料を見て意見文を書く <p style="text-align: right;">(2学期中間考査) (2学期期末考査)</p>			
	三学期			※授業なし			
履修上の心得と注意		<p>学習到達目標達成のために、各自が積極的かつ意欲的に授業に参加する必要があります。 また授業の進行方法は演習及び解説が中心です、必ずノート及び筆記用具を用意し書き留めて下さい。</p>					
評価観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	読む能力	書く能力	話す・聞く能力	知識・理解		
評価観点趣旨	様々な分野の設問に対して意欲的な態度で取り組む。	正解を導くため、問題文中に表現された思想や感情を読み取る。	考えをまとめ相手や目的に応じ筋道立てて適切に文章を書くことを身につける。	問題毎に解答後の添削で必要な観点を整理し、それを周囲に発表する。	構成・文法・語句・表記・漢字を理解し文章読解に役立つ知識を身につける。		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席状況 ・授業に取り組む姿勢 ・課題等の提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業に取り組む姿勢 ・問題演習 ・iPadでの課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・論作文作成及び提出 ・問題演習 ・iPadでの課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に取り組む姿勢 ・ノート 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・課題等の提出 ・ノート ・iPadでの課題 		

教科	選択B	科目	古典	単位数	2	学年・コース	3年 進学・体育/選択Ⅱ
教科書	数研出版「読解をたいせつにする古典文法ノート読解演習編」		担当者	多胡東明光			
概要・目標	基本的な古典文法を復習し、古文常識を押さえながら文法力、語彙力、読解力を深め、入試に必要な解答力を着実に身につける。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	活動・評価			
	一学期	2 8	仮名遣い・文節・品詞 用言(動詞・形容詞・形容動詞)	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことができる。 文を文節に分けることができる。 用言の活用の種類や活用形を理解する。 古語辞典を用いて重要古語の意味用法を調べ、理解する。 場面状況と登場人物の行動や心情を把握し、話の展開を理解する。 	(1学期中間考査)		
		2 2 2 2	受身の助動詞「る・らる」 使役の助動詞「す・さす・しむ」 過去の助動詞「き・けり」 完了の助動詞「つ・ぬ・たり・り」	<ul style="list-style-type: none"> 助動詞の活用や意味を理解する。 助動詞の意味の識別を理解する。 古語辞典を用いて重要古語の意味用法を調べ、理解する。 古文常識を理解する。 場面状況と登場人物の行動や心情を把握し、話の展開を理解する。 	(1学期期末考査)		
	二学期	2 2 2 2	推量の助動詞「む・けむ・らむ・めり」 推量の助動詞「べし・まし・らし」 打消推量の助動詞「ず・むず・じ・まじ」 敬語	<ul style="list-style-type: none"> 助動詞の活用や意味を理解する。 敬語の種類や意味を理解する。 古語辞典を用いて重要古語の意味用法を調べ、理解する。 古文常識を理解する。 場面状況と登場人物の行動や心情を把握し、話の展開を理解する。 	(2学期中間考査)		
		2 2 2 3 3	断定・比況の助動詞「なり・たり・ごとし」 伝聞・推定の助動詞「なり」 希望の助動詞「たし・まほし」 助詞 敬語	<ul style="list-style-type: none"> 助動詞の活用や意味、助詞の働きを理解する。 敬語の種類や意味を理解する。 古語辞典を用いて重要古語の意味用法を調べ、理解する。 古文常識を理解する。 場面状況と登場人物の行動や心情を把握し、話の展開を理解する。 	(2学期期末考査)		
	三学期	3学期は授業を行いません。					
履修上の心得と注意							
学習到達目標達成のために、各自が積極的かつ意欲的に授業に参加する必要があります。ノート・iPadは必ず準備すること。また、課題等の提出物は評価に影響するので必ず提出すること。							
評価観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	読む能力	書く能力	話す・聞く能力	知識・理解		
評価観点趣旨	文章の中に広がる世界への関心を深め様々な問題から意欲的に自己を追求する。	現代語訳を基に表現された思想や感情を読み取りモノの見方や感じ方を豊かにする。	文法・古語の知識を生かして自力で現代語訳できる力を身につける。	自分の考えを明確に話すと同時に相手の話を聞き的確に捉えることを習得する。	文法・古語を理解し文章読解に役立つ知識を身につける。		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業への出席状況 授業に取り組む姿勢 課題等の提出 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 授業に取り組む姿勢 ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 ワークシート ノート ロイロノート 	<ul style="list-style-type: none"> 授業に取り組む姿勢 ワークシート ノート ロイロノート 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 課題等の提出 ワークシート ノート 		

教科	選択B	科目	日本史演習	単位数	2	学年・コース	3年 進学・体育/選択者
教科書	『詳説 日本史B』山川出版 『新詳 日本史図説』浜島書店			担当者	小岩井 達裕		
概要・ねらい	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察し、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる市民としての自覚と資質を養う。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価規準			
	一学期	10	第10章 二つの世界大戦とアジア 1 第一次世界大戦と日本 2 ワシントン体制 3 市民生活の変容と大衆生活	●第一次世界大戦前後の政治の動向を、政党内閣の成立や欧米・アジア諸国との関係を踏まえて考察できたか。 ●ワシントン体制に至る過程を、国際環境の変化の中で日本の立場に着目しながら捉えられたか。 ●大衆文化の成立を、その背景となる社会風潮に着目しながら考察できたか。 《1学期中間考査》			
		10	第10章 二つの世界大戦とアジア 4 恐慌の時代 5 軍部の台頭 6 第二次世界大戦	●恐慌から立ち直るために軍部が台頭した背景を理解しているか。 ●戦争に対して民衆(特に銃後の人びと)をどのように巻き込まれていったのか、そしてどのように戦後を生き抜いたのを考察できているか。 ●なぜ、日本が国際関係を分断して、アメリカと戦争を始めたのかを中国をキーワードにしながら考察が出来るか。 《1学期期末考査》			
	二学期	13	第11章 占領下の日本 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和 第12章 高度成長の時代 1 55年体制 2 経済復興から高度成長へ	●戦後、日本はどのように国際社会に復帰したのか理解する。 ●第二次世界大戦の頃からすでに、冷戦がはじまっていたことに着目し、日本は国際関係のどこに位置づけられていたのかを考察できたか。 ●アメリカを中心とする占領軍は、なぜ日本を「占領」するのではなく「独立」させたのかを考察し、日本はどのように戦後を迎えたのか理解できたか。 《2学期中間考査》			
		13	第13章 激動する世界と日本 1 経済大国への道 2 冷戦の終結と日本社会の変容	●太平洋戦争後の「虚脱」状態から「もはや戦後ではない」と言われるまでに社会が変化した理由について考察できたか。 ●民衆の政治関心が高まり、社会運動が活発になるまでの背景を考察できたか。(文化など含めて) ●戦後の社会変化、経済好転の終焉を迎えて、日本社会のひずみが顕在化し始めた中でどのように経済大国へのし上がっていったのかを考察する。 ●冷戦が終結し、国際関係は新たな線引きを画策し始める今日、日本は国際関係とどう向き合うべきなのか、近現代史の中から考察する。 ●国家も人びとも「個」を重視する社会の中で、自分たちがこの先どのように生きていくのか、具体的に考察できたか。 《2学期期末考査》			
三学期			3学期は授業を行いません。				
履修上の注意							
●歴史の大勢をつかむこと。 ●配布されたプリントを保管すること ●常に自分の意見を持ち、理論立てて説明できるようにすること ●向上心を持ち、切磋琢磨すること ●欠席、遅刻をしないこと ※評価は定期試験と上記事項などを含め判断する							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解			
評価の観点の趣旨	わが国の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	日本の歴史から課題を見出し、文化の多様性と現代世界の特徴を日本的視野にたつて多面的・多角的に考察するとともに国際社会の変化を踏まえ、公正に判断する。	日本の歴史についての諸資料を収集し、興味ある情報を選択して活用することを通して歴史的な事柄を追求する方法を身につけるとともに、追求し考察し過程や結果を適切に表現する。	日本の歴史についての基本的な事柄を、東アジアやヨーロッパの歴史と比較しながら、どのように展開していくか追求し考え理解されているか判断する。			
評価方法	●授業への出席状況 ●授業への取り組み姿勢 ●課題等の提出状況	●定期テスト ●授業への取り組み姿勢 ●課題等の提出状況	●定期テスト ●授業への取り組み姿勢	●定期テスト ●小テスト ●課題等の提出状況			

教科	選択B	科目	世界史演習	単位数	2	学年・コース	3年 進学・体育/選択者
教科書	山川出版社『詳説 世界史B』 帝国書院『最新世界史図説 タペストリー』			担当者	渡部 翔太		
概要・ねらい	これまで学習してこなかったアジアの歴史について学び、一般大学受験にも対応できるだけの学力を身に着けることを目的とする。またこれまで学んできたヨーロッパの歴史とアジアの歴史の関連性を見出し、歴史への理解を深めるとともに歴史的思考能力を育むことを目的とする。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価基準			
	一学期	10	第Ⅱ部 第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開	<ul style="list-style-type: none"> ●トルコと中国の発展を正しく理解することができたか。 ●既習分野に関する問題演習に真剣に取り組み、知識を活用することができたか。 <<1学期中間考査>>			
		10	第Ⅱ部 第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開	<ul style="list-style-type: none"> ●モンゴル大帝の形成から解体までを正しく理解することができたか。 ●既習分野に関する問題演習に真剣に取り組み、知識を活用することができたか。 <<1学期期末考査>>			
	二学期	13	第Ⅲ部 第7章 アジア諸地域の繁栄	<ul style="list-style-type: none"> ●明朝時代の東アジアの歴史を正しく理解することができたか。 ●既習分野に関する問題演習に真剣に取り組み、知識を活用することができたか。 <<2学期中間考査>>			
		13	第Ⅲ部 第7章 アジア諸地域の繁栄	<ul style="list-style-type: none"> ●清朝時代の東アジアの歴史を正しく理解することができたか。 ●既習分野に関する問題演習に真剣に取り組み、知識を活用することができたか。 <<2学期期末考査>>			
	三学期		3学期は授業を行いません。				
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は必要に応じて板書したり、プリントなどを利用するので、必ず教科書・ノート・配布プリントなどを用意しておくこと。 ・学習と演習を交互に行うので毎時間必ず復習をすること。 ※評価は定期試験と上記事項などを含め判断する 						
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解			
評価の観点の趣旨	世界史について関心を持って取り組み、意欲的に課題に取り組んだか。	世界史を過去の事象の積み重ねとして捉えて、出来事の連続性を見出すことができたか。	資料から情報を読み取り空欄補充に活用することができたか。	世界史における重要な出来事を正しく学び、覚えることができたか。歴史の因果関係を正しく捉えることができたか。			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ●授業への出席状況 ●授業への取り組む姿勢 ●課題等の提出 	<ul style="list-style-type: none"> ●定期テスト ●授業への取り組む姿勢 ●課題等の提出 	<ul style="list-style-type: none"> ●定期テスト ●課題等の提出 	<ul style="list-style-type: none"> ●定期テスト ●課題等の提出 			

教科	選択B	科目	世界遺産検定	単位数	2	学年・コース	3年 進学・体育/選択者
教科書	『きほんを学ぶ世界遺産100』マイナビ			担当者	岡田 新平		
概要・ねらい	世界遺産を中心にその歴史や地理、現代社会における諸事情を学び、世界遺産検定3級以上の合格を目指す。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価基準			
	一学期	10	1. 世界遺産の基礎知識 ・世界遺産とは ・ユネスコの設立 ・遺産登録までの流れ ・グラフと数字で読み取る世界遺産	<ul style="list-style-type: none"> ●世界遺産を学ぶ意義を見出しながら、歴史・文化的背景や気候風土に対する理解を深め、世界中に存在する様々な文化や伝統、価値観について比較することができるか。 ●世界遺産が認められるまでの過程について理解し、世界における日本の遺産がどのような位置づけであるかを把握できているか。 ●映像を通じて、レポート・ワーク課題を意欲的に取り組むことができるか。 ≪1学期中間考査≫			
		10	2. 日本の世界遺産 ・東日本における都道府県の世界遺産	<ul style="list-style-type: none"> ●各都道府県の特徴を捉え、世界遺産に認定されたきっかけとなる出来事や風習について理解し、その内容を説明できるか。 ●映像を通じて、レポート・ワーク課題を意欲的に取り組むことができるか。 ≪1学期期末考査≫			
	二学期	13	2. 日本の世界遺産 ・西日本における都道府県の世界遺産 ※9月上旬に校内にて検定を実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ●1学期で学んだことを踏まえ、引き続き日本の遺産について、学習し、基礎的な知識を身に付け、検定実施に向けて、意欲的に取り組むことができるか。 ●映像を通じて、レポート・ワーク課題を意欲的に取り組むことができているか。 ≪2学期中間考査≫			
		13	3. 世界の世界遺産 ・世界遺産の登録数が多いイタリアと中国について 4. 総まとめ ・過去問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ●外国で有名な世界遺産について学び、特に登録数の多いイタリアと中国については詳しく調べ、理解を深めることができているか。 ●今まで学習した内容をふり返り、過去問題を通じて把握できているか。 ≪2学期期末考査≫			
三学期		3学期は授業を行いません。					
履修上の注意							
<ul style="list-style-type: none"> ●板書をしっかり写すこと ●配布されたプリント・データを保管すること ●課題、宿題などにしっかり取り組むこと ●欠席、遅刻をしないこと ※評価は定期試験と上記事項などを含め判断する							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用	知識・理解			
評価の観点の趣旨	歴史や自然環境だけでなく、文学や音楽、絵画、神話、建築、世界政治、平和問題、観光など、現代の世界を形作る様々なものと結びつく世界遺産に興味を抱けるか。	世界の遺産から課題を見出し、文化の多様性と現代世界の特徴を世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断できるか。	地図や絵画などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身につけるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現できるか。	私たちが日常生活を送る社会とは異なる魅力をもつ世界の文化や自然を知り、日本の文化や歴史の価値も再発見できるか。			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ●授業への出席状況 ●授業への取り組む姿勢 ●課題等の提出 	<ul style="list-style-type: none"> ●定期テスト ●授業への取り組む姿勢 ●課題等の提出 	<ul style="list-style-type: none"> ●定期テスト ●授業への取り組む姿勢 	<ul style="list-style-type: none"> ●定期テスト ●課題等の提出 			

教科	選択B	科目	数学B	単位数	2	学年・コース	3年 進学・体育/選択者
教科書	Study-Upノート『数学B』数研出版			担当者	飯嶋晃弘		
概要・ねらい	数列やベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを現実に応用しようとする態度を育てる。また、数学的帰納法などに代表される代表される、数学Bで学ぶ知識が、「生きる力」として身に付くようにする。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価規準			
	一学期	3 3 4 4 3 3	第1章 数列 1節 数列	数列の概念および数列についての基本的な用語の意味を理解し、等差・等比数列の一般項や和を求めることができたか。 《第1学期中間考査》 数列の帰納的定義について理解し、簡単な漸化式を扱うことができる。また、帰納的な考え方の良さに気づき、等式や不等式の証明に利用することができたか。 《第1学期期末考査》			
			等差数列・等差数列の和				
			等比数列・等比数列の和				
和の記号 Σ							
いろいろな数列							
2節 漸化式と数学的帰納法							
漸化式							
数学的帰納法							
二学期	1 2 4 4 3 5 2 5	第2章 ベクトル 1節 平面上のベクトル	平面上のベクトルの概念を理解し、ベクトルに関する基本的な用語・記号を理解している。また、ベクトルの加減法や内積を理解し、問題に応用ができたか。 《第2学期中間考査》 位置ベクトルについて知り、図形の問題をベクトルを利用して解くことができる。また、平面上の直線や円などの図形が、ベクトルを用いて表現されることを知ること、身近な事象に置き換えて考えることができたか。 空間の座標を定義し、さらに平面上のベクトルが自然に拡張されて、空間においてもベクトルを考えることができたか。 《第2学期期末考査》				
		ベクトルの意味					
		ベクトルの加法・減法・実数倍					
		ベクトルの成分					
		ベクトルの内積					
		2節 ベクトルの応用					
		位置ベクトル					
		ベクトル方程式					
		3節 空間におけるベクトル					
		空間座標					
空間におけるベクトル							
三学期	3学期は授業を行わない						
履修上の注意							
授業では毎回教科書・ノートを準備し、板書は必ずとること。 iPadを活用して、進度に応じた類似問題をロイロノートで配信する。課題提出、ノート提出も評価の対象とする。 定期考査は授業で扱った問題を基本的に出題し、一般選抜に向けた問題も出題する。							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	表現・処理	知識・理解			
評価の観点	数学的な活動を通して数列・ベクトルの考え方や思考に興味・関心を持ち、様々な事象をその考え方で考察しようとしているか。	事象を数学的にとらえることができ、数学的な見方や考え方を思考の過程を振り返ることが出ているか。また、活動を通して多面的・発展的に考えることが出ているか。	いろいろな問題に触れる中で、身近な事象を用いて数学的な考え方を基に、その事象を表現する方法を身につけることが出ているか。	いろいろな問題を解決する活動の中で、身近な例を数列・ベクトルで表すことの良さを理解し、応用も含めた知識を身につけることが出ているか。			
評価方法	授業への出席状況 授業への取り組む姿勢 ノートチェック	授業への取り組む姿勢 ノートチェック 定期考査	授業中の解答 課題提出 定期考査	授業中の解答 課題提出 定期考査			

教科	選択B	科目	数学検定	単位数	2	学年・コース	3年進学・体育/選択者
教科書	『数学検定ステップアップ問題集準2級』ユーキャン			担当者	村松有摩		
概要・ねらい	<p>・数学検定準2級合格を目標とし、中学校及び高等学校1年生で習った基礎学力の定着とともに、論理的思考能力の向上を図る。</p> <p>・方程式と不等式、2次関数及び図形と計量、平面図形、集合と論理及び場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な見方や考え方のよさを認識し、活用できるようにする。</p>						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価活動			
	1学期		計算技能検定対策 1. 数と式 2. 方程式・1次不等式 3. 関数・2次不等式 4. 三角比 5. 確率 6. 平面図形	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な事項を理解し、計算を行うことができるか。 ・各公式の性質を理解し、問題に活用することができるか。 《第1学期中間考査》 <ul style="list-style-type: none"> ・不等式の特性を理解し、論理的に互いの関係性を表すことができるか。 《第1学期期末考査》			
	2学期		数理技能検定対策 1. 数の性質・方程式の応用問題 2. 2次関数の応用問題 3. 図形の応用問題 4. 論理的応用問題	<ul style="list-style-type: none"> ・出題頻度の高い公式を的確に問題に活用できるか。 ・2次関数の特徴を理解し、様々な出題形式に対応することができるか。 《第2学期中間考査》 <ul style="list-style-type: none"> ・各図形の特徴や公式を理解し、活用することができるか。 ・論理的に問題を考察し、解答を導くことができるか。 《第2学期期末考査》			
	3学期		3学期には授業を行いません。				
履修上の注意	授業は担当者が作成したテキストで行います。各授業で單元ごとに配布しますので、必ずテキストとノートを持ってくること。また、課題等の提出に関しては評価に影響しますので、必ず提出するようにしてください。 3学期に数学検定を受験してもらいます。						
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	表現・処理	知識・理解			
評価の観点	数学的活動を通して、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	事象を数学的にとらえ、論理的に考えるときにも思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。	事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身につけ、的確に問題を解決する。	数学における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につけている。			
評価方法	授業への出席状況 授業への取り組み姿勢 課題等の提出状況	小テスト・数学検定の結果 授業への取り組み姿勢 課題等の提出	小テスト 問題作成時の取り組み	定期考査 数学検定の結果 課題等の提出			

教科	選択B	科目	化学基礎演習	単位数	2	学年・コース	3年 進学・体育/選択者
教科書	『改訂 新編化学基礎』東京書籍			担当者	松村 智代		
概要・ねらい	自然に対する理解や科学技術の発展がこれまで私たちの日常生活や社会にいかに関与し、どのような役割を果たしてきたかについて、身近な事象・現象に関する観察、実験などを中心として学び、科学的な見方や考え方を養い、科学に対する興味・関心を高めていくことを目的とする。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価規準			
	一学期	10	1 編 物質の構成 1章 物質の成分と構成元素 2章 原子の構造と元素の周期表 ①原子の構造 ②電子配置と周期表 3章 化学結合 ①イオンとイオン結合 ②分子と共有結合 ③金属と金属結合	<ul style="list-style-type: none"> 物質の基本的な性質を理解できたか。 物質の成り立ちを構成粒子から考え、その粒子と物質について理解できたか。 構成粒子を総合的に考察し、理解を深められたか。 電子について理解し、周期表との関連を理解できたか。 化学結合の本質と結合様式の違いを理解できたか。 物質の性質の違いと化学結合の違いの関連を理解できたか。 (中間考査) 			
		10	2 編 物質の変化 1章 物質と化学反応式 ①原子量・分子量・式量 ②物質 ③溶液の濃度 ④化学反応式とその量的関係	<ul style="list-style-type: none"> 物質の概念を理解し、さらにその扱い方・量的関係を理解できたか。 物質の変化に伴うエネルギーの変化を理解し、その利用を考えられるようになったか。 (期末考査) 			
	二学期	15 15	2章 酸と塩基 ①酸と塩基 ②水素イオン濃度とpH ③中和反応と塩 ④中和滴定 3章 酸化還元反応 ①酸化と還元 ②酸化剤と還元剤 ③金属の酸化還元反応 ④酸化還元反応の応用	<ul style="list-style-type: none"> 酸・塩基について関心や探究心を身につけ、その性質やはたらきを理解できたか。 (中間考査) 中和反応の本質を理解できたか。 酸化・還元に関する事象、現象に関心や探究心を身につけ、その性質やはたらきを理解できたか。 電池や電気分解から酸化・還元の利用を理解できたか。 (期末考査) 			
三学期		3学期は授業を行いません。					
履修上の注意							
評価の観点 ・授業では板書をしたり、配布物を使用したりするので、専用ノートやファイルを用意すること。 ・実験や演示があります。実験の際は教科書・ノートを持参し、遅刻しないよう化学室に集合してください。 ・実験後は必ずレポートを提出します。							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断	表現・処理	知識・理解			
評価の観点	・自然の事象や現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究し総合的にとらえ、また科学的態度を身につけているか。	・それぞれの分野において、事実や仕組みなどを考え、その特徴や法則、働き、利用などを導き出せるか。	・自らの考えをもとにして適切に表現できるか。	・基本的な概念や原理・法則を理解し、知識・技能を身につけているか。			
評価方法	・授業への出席状況 ・授業に取り組む姿勢 ・課題等の提出状況	・定期テスト ・授業に取り組む姿勢 ・課題等の提出	・定期テスト ・ノート・課題・レポートの提出	・定期テスト ・小テスト			

教科	選択B	科目	物理実験	単位数	2	学年・コース	3年 進学・体育/選択者
教科書	授業のプリント、データ			担当者	梅岡 雅人・高瀬 綾香		
概要・ねらい	物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。						
年間授業計画	学期	配 当 時 間	学習内容	評価規準			
	一 学 期	20	実験ノート・レポート作成 等加速度直線運動の測定	<ul style="list-style-type: none"> 客観的考察ができているか。 「序論」⇒「本論」⇒「結論」でレポートが書けているか。 			
		3	探究実験	<ul style="list-style-type: none"> 各自実験テーマを決めて、それぞれ発表が「序論」⇒「本論」⇒「結論」で説明ができているか。 			
	二 学 期	26	ロケットの打ち上げ				
3学期は、授業を行いません。							
履修上の注意							
① 授業中の配布プリント、筆記用具を持参の上、授業に取り組むようにしてください。 ② ③							
評価の観点							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	思考力・判断力	資料活用の技能・表現力	知識・理解			
評価の観点	・物理的な事物・現象に関心や探究心をもち、主体的にそれらを探究するとともに、科学的な態度を身に付けている。	・事象の中の問題を実証的、論理的に考え、分析的、総合的に考察して、問題を解決し、事実にもとづいて科学的に判断する。	・物理的な観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究し、導き出した自らの考えの過程や結果を的確に表現する。	・観察、実験や課題研究などを通して物理的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている			
評価方法	授業への出席状況 授業への取り組み姿勢 課題等の提出状況	定期考査の実績 学習状況の観察 課題等の提出状況	学習状況の観察 問題や問いかけ等の回答実績 実験、探究などのレポート	定期考査の実績 問題や小テストの回答実績 課題等の提出状況			

教科	選択B	科目	実践柔道	単位数	2	学年・コース	3年 進学・体育/選択者
教科書	『ステップアップ高校スポーツ2019』大修館			担当者	小久保 純史		
概要・ねらい	技能の程度に応じて目標をもたせ、勝敗の原因を考え技能の練習方法を工夫するなど、互いに協力して計画的に練習や試合ができるようにする。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価基準			
	一学期	20	1. 基本動作 ①受身II 2. 对人的技能 ①立技 ・大腰 ・背負い投げ ・大外刈り ②固め技 ・袈裟固め ・横四方固め ・上四方固め	・四つんばいの人を飛び越えてからの前回り受身等、その速さ、強度に応じた前回り受身ができたか。 ・正しくスピード感ある打ち込みができるか。 移動しながらバランス崩さずに投げるができるか。 ・正しい抑え方、逃げ方を理解できたか。 決めのポイントを理解し、それを実践してできるか。 《実技試験》			
	二学期	26	③立技 ・体落とし ・大内刈り ④絞め技 ・裸絞め ・送り襟絞め 3. 乱取り ①立技乱取り ②寝技乱取り	・正しくスピード感ある打ち込みができるか。 移動しながらバランス崩さずに投げるができるか。 ・正しく頸動脈や気管を圧迫した絞めができるか。 絞め技の防御と逃げ方を理解できたか。 ・規則を守り、互いに相手を尊重し、公正な態度で練習が激しくできるか。 《実技試験》			
	三学期		3学期は授業を行いません。				
履修上の注意							
柔道着は、体に合ったサイズのものを用意すること。							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解			
評価の観点の趣旨	柔道の連絡技に関心を持ち、学習に取り組もうとする。	自分の得意技からの連絡変化を考えながら練習ができる。	組み手で相手の技を封じ、相手のバランスを崩して投げることができる。	勝負の判定、反則の判定等試合の規定を理解する。			
評価方法	授業への出席状況 授業への取り組み姿勢	実技テスト 授業への取り組み姿勢	実技テスト 授業への取り組み姿勢	実技テスト 授業への取り組み姿勢			

教科	選択B	科目	コミュニティーダンス	単位数	2	学年・コース	3年 進学・体育/選択者
テキスト	『ステップアップ高校スポーツ2018』 大修館			担当者	米澤 倫子		
概要・ねらい	ダンスのもっている力を「創造力・コミュニケーション力・表現力」を社会の中のあらゆる局面において活かせるよう身につける。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価基準			
	一学期	20	<ul style="list-style-type: none"> ストレッチ、ウォームアップ 動きの発展 即興から動きを生み出す。 ミラーゲームからの動きの発展 インプロゲームからの動きの発展 作品づくり 発表、鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> 他のグループの動きや表現の良さを見つけて伝え合い、また、アドバイスし合い、それを生かして改善することができたか。 作品を発表し合い、鑑賞し、そして他のグループ作品を体験することによって互いのよさを認め合い、相互に評価できたか。 テーマから思い浮かぶ動きをみんなで出し合うことができたか。 発想豊かにイメージを広げながら作品を作ることができたか。 《実技試験》			
	二学期	26	<ul style="list-style-type: none"> ストレッチ、ウォームアップ 動きの発展 即興から動きを生み出す。 ミラーゲームからの動きの発展 インプロゲームからの動きの発展 作品づくり 発表、鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> 他のグループの動きや表現の良さを見つけて伝え合い、また、アドバイスし合い、それを生かして改善することができたか。 作品を発表し合い、鑑賞し、そして他のグループ作品を体験することによって互いのよさを認め合い、相互に評価できたか。 《実技試験》			
	三学期		3学期は授業を行いません。				
履修上の注意							
<ul style="list-style-type: none"> 遅刻、欠席をしない。 身なりを整え、長い髪は結び、爪は切ってくること。 							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解			
評価の観点の趣旨	授業に積極的に参加しているか。	自分の課題を達成させるために学習活動へ取り組んでいるか。	いまある技能を伸ばせるように課題をもって参加しているか。	各種運動の特性を理解しているか。			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 出席状況 学習姿勢 活動状況 	<ul style="list-style-type: none"> 学習姿勢 課題発表 	<ul style="list-style-type: none"> 学習姿勢 課題発表 	<ul style="list-style-type: none"> 課題レポート提出 			

教科	選択B	科目	スポーツ科学演習	単位数	2	学年・コース	3年 進学・体育/選択者
教科書	基礎から学ぶスポーツ概論 大修館			担当者	西山一貴		
概要・ねらい	体育系大学の一般選抜(実技内容)に向けて、試験内容にある種目の対策を行う。 様々なスポーツの科学的な理論を理解し、自身の専門とする競技力を高めることや、指導者として競技力を高める方法を学ぶ。 測定した数値、動作や能力に対し、科学的根拠に即した評価を行う。そして理論的に改善を行い、能力を高める方法を導き出し、身につける。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価基準			
	一学期	20	目標設定をする 自分の能力を測定し評価する ・メディシンボール投げ ・3コーンドリル ・垂直跳び ・加速走 ・20mシャトルラン 目標達成に向けた組み立てと実践	・自分の目標としている基準内容を理解し、自分の目標を立てて今後の取り組み内容を明確にできている。 ・理論をもとに自分の能力を高めるために、必要な取り組むべき内容を選択できている。 ・理論をもとに自分の能力を高めるために、必要な取り組むべき取り組みをしている。 ・理論をもとに自分の能力を高めるために、必要な取り組むべき評価できている。			
	二学期	26	自分の能力を測定し評価する 他者の測定を評価する ・メディシンボール投げ ・3コーンドリル ・垂直跳び ・加速走 ・20mシャトルラン 測定してきた自分の評価と取り組みをまとめ発表す	・自分の現状を明確に評価し、取り組みの設定ができている。 ・他者の実施動作を観察し、自身の課題への改善方法を導き出す。 ・複数回の実施の中でPDCAサイクルをもとに計画的に見直しを持った計画を立てられている。 ・評価をもとに自分の取り組みを理論的にまとめ発表する。			
	三学期		3学期は授業を行いません。				
履修上の注意		教科書とノートを準備する。 授業終了後の提出物は必ず提出する。					
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断		知識・理解			
評価の観点の趣	科学的な根拠に着目して、能力を高める方法に関心を持って取り組もうとする。	評価をもとに自分の改善点・高める方法を見つけている。		各種の正しい運動の仕方、安全についての知識を身につけている。自己の能力・他者の能力を評価する知識を身につけている。			
評価方法	・出席状況 ・学習姿勢 ・活動状況	・学習姿勢 ・レポート、ノート提出 ・プレゼンテーション		・学習姿勢 ・レポート、ノート提出 ・プレゼンテーション			

教科	選択B	科目	鑑賞で知る音楽史	単位数	2	学年・コース	3年 進学・体育/選択者
教科書	自主教材・オペラDVD使用			担当者	佃 馨		
概要・ねらい	音楽を題材にしたDVDを鑑賞し、その時代の生活習慣や文化等について学習する。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価基準			
	一学期	1	1、オリエンテーション 鑑賞に対する姿勢と、この講座の主旨を説明する。	モーツァルトの生涯について、どのような事に興味を持つ事が出来たか。 オペラ「魔笛」の鑑賞 内容について、興味を持って鑑賞し、内容を理解する事が出来たか。 ※ その他のオペラの鑑賞「トゥーランドット」他 モーツァルトの時代のオペラとの比較			
		5	2、モーツァルトの生涯を知る。 映画「アマデウス」の鑑賞を通じ、モーツァルトの作品を知る。				
	二学期	12	3、モーツァルトのオペラ作品を鑑賞する。 オペラの構成について知る	ミュージカルとオペラの違いについて、理解する事が出来たか。 オペラの歴史と、ミュージカルの歴史について、理解する事が出来たか。 作曲家、バーンスタインについて、興味を持って調べる事が出来たか。 ストーリーについて理解し、感想文において、表現する事が出来たか。 「ピーターパン」「白雪姫」等の名作を鑑賞し、ミュージカルの要素を探る事が出来たか。 アニメーションの歴史と、その原理について、知る事が出来たか。			
6		4、ミュージカルの鑑賞 「オペラ座の怪人」の鑑賞 6「ウエストサイドストーリー」 6 アニメーションに見るミュージカルの手法 ディズニーのアニメーションを鑑賞。 4 日本のアニメーション 宮崎駿の作品の鑑賞。					
三学期		3学期は授業を行いません。					
履修上の注意							
<ul style="list-style-type: none"> ● 鑑賞が中心となる授業なので、取り組む姿勢には十分な注意が必要。 ● 鑑賞内容や、理解した事について、感想文等で理解・表現できているかを注意する事が必要。 ● 興味を持って取り組んでいるかを、レポート等で確認する。 							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫		創造的な表現の技能		鑑賞の能力	
評価の観点の趣旨	鑑賞を通して、その物語の趣旨を理解する事が出来る。 作者について、積極的に学習する事が出来る。	作品の背景や、作者が伝えようとする事を事後的確にとらえ、感想文等で表現し伝える事が出来る。		作品の中での、役者の台詞、動作、アリア等の意味をとらえ、レポート等で自分が感受した事を表現出来る。		物語の趣旨を多方面から捉え、理解する事が出来る。	
評価方法	授業の出欠状況 取り組む姿勢 提出物等	授業の出欠状況 取り組む姿勢 提出物等		授業の出欠状況 取り組む姿勢 学習プリントの提出		取り組む姿勢 学習プリントの提出	

教科	選択B	科目	美術選択	単位数	2	学年・コース	3年 進学・体育/選択者
教科書	自主教材			担当者	岡田 敬子		
概要・ねらい	基礎デッサンの習得を目指す。油絵の基礎を学ばせる。 正確な物の形を把握する事と創造性を養う。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価基準			
	一学期	2	基礎デッサンの用具使い方を指導する	木炭紙 木炭の使い方 消す方法			
		6	基礎デッサン(石膏像)	木炭紙を使用 モチーフを観察し、正確な形や、陰影を表現できたか。			
	二学期	4	油絵道具の使い方とキャンパスの下描き	油絵の具の基本的な使い方を理解できたか。 完成をイメージし、効果的な下描きが作れたか。			
10		風景油彩(好きな風景写真を使用)	自分の表したい風景表現ができたか。 作品の獨創性・完成度				
三学期	12	静物油彩(花、ビン、果物等)	モチーフを画面に美しく配置し、色彩を工夫し独自の表現ができたか。 学んできた色彩の効果を応用し、遠近感を表現できたか。 作品の獨創性・完成度				
	12	銅版レリーフ	アイデアスケッチをまとめる ヘラや釘などで細かい描写を表現できたか。 燻し液を使って腐食させ、銅による味わいを表現できたか。 作品の獨創性・完成度				
3学期は授業を行いません。							
履修上の注意							
<ul style="list-style-type: none"> 持ち物には必ず記名する 授業時に使用したのものにはきちんと掃除をし整頓しておく 実技作品は提出期限を守る 							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫		創造的な表現の技能	鑑賞理解		
評価の観点の趣旨	基礎デッサンを理解させる。	豊かに表現し大きな視点で物を捉える力がある。		創造的な表現をする為の様々な工夫をしている。 用具の使い方の理解度	優れた作品への理解と知識を養う。		
評価方法	作品の完成度と確かなデッサン力の表現	実技作品の完成度 授業への積極的参加		1、実技作品の完成度 2、授業への取り組む姿勢	1、観察力を養う 2、授業への取り組む態度		

教科	選択B	科目	書道選択	単位数	2	学年・コース	3年 進学・体育/選択者
教科書	自主教材			担当者	北田 朋子		
概要・ねらい	<p>これまで学習したことを更に発展させ、創造的で個性的な造形の豊かさと線質の豊かさを高め、書の文化や伝統を愛好する心を育てる。</p> <p>書の多方面な展開を楽しむ。</p>						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価基準			
	一学期	6 4 2 10	6 臨書(半切作品制作) 4 漢字仮名交じりの表現 2 一字創作 10 自由制作(全紙作品制作)	古典の筆法をまねて、半切作品を制作することができたか。 漢字と仮名を調和させ、表現できたか。 決められた紙面に漢字を工夫して配置できたか。 今まで学んだことを活かし、オリジナルな作品を制作することができたか。 よき位置に名前を書き、印を押すことができたか。 お互いの作品を鑑賞することができたか。			
	二学期	20	ささまざまな書表現 うちわ等への文字入れ マーブルリング 白抜き文字 アクリル絵の具による表現	様々な技法での手順を理解し、オリジナルな作品を制作できたか。			
	三学期		3学期は授業を行いません				
履修上の注意	<p>共有物は大切に使用し、次の時間の生徒に不愉快さを与えないことを学ばせる。</p> <p>学習内容により危険物を使用することもあるので、沈着な授業展開が必要となる。</p> <p>毎時間作品の提出を求める。</p>						
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	芸術的な感受		創造的な表現と技術	鑑賞と理解の能力		
評価の観点の趣旨	主体的に書と関わる姿勢が必要。自ら感性を高め美との関りに喜びを求める。	感受性豊かに、作品に反映させた作品を作る。		教材を理解し独自の表現を試みる。	歴史の展開を知り、その時代背景と共に鑑賞する。素直に表現する。		
評価方法	授業に取り組む姿勢。作品の成績と提出状況	作品の完成度。文言の選択。		作品の完成度。独自性。用具用材への取り組み方	作品の完成度。作品にいかいに生かされたか。		

教科	選択B	科目	英語検定	単位数	2	学年・コース	3年 進学・体育/選択者
教科書	Step by Step 4 Skills 1,2 (三省堂)			担当者	内田 浩一		
概要・ねらい	<p>英検受験対策をし、各自のスコアを伸ばせる授業を行う。</p> <p>授業内では4技能の平均的に取り組む。グループでの学びあいの活動を行う。</p> <p>学年末受験の実用技能英語検定にて準2級以上の合格を目標とする。</p>						
年間授業計画	学期	配当時間	単元	学習内容			
	一学期	2	1 英検について、学習計画	・ 目標の設定、現状の把握			
		3	2 オリエンテーション1	・ 準2級未受験者へのガイダンス、3級の復習			
3		Unit1	・ 完了形、関係詞、分詞、不定詞				
3		4 文法チェック④、⑤	・ 前置詞、接続詞、助動詞、比較、代名詞				
3		5 練習問題 筆記1	・ 文法事項の確認、イディオムの確認①				
3		6 練習問題 筆記2	・ 文法事項の確認、イディオムの確認②				
3		7 練習問題 筆記3①	・ 空所補充のポイント				
二学期	1	8 英検C B Tについて	・ コンピュータを用いたテストングについて				
	3	9 リスニング第1部①	・ 聞き取りのポイント、音の連結を学ぶ				
	3	10 リスニング第2部①	・ 選択肢から質問を予想する				
	3	11 リスニング第3部①	・ 解答となるポイントの聞き取りとマークシートについて				
	3	12 練習問題 筆記3②	・ 読解のポイント、単語確認				
	3	13 練習問題 筆記4 A①	・ メール文の読解①				
	3	14 練習問題 筆記4 A②	・ メール文の読解②				
三学期	4	15 練習問題 筆記4 B①	・ 読解問題、内容一致の解答				
	4	16 練習問題 筆記4 B②	・ 読解問題、速読、スキミングについて				
		3学期は授業を行いません。					
履修上の注意							
<p>1 真面目に授業に参加すること。</p> <p>2 辞書、ノート、筆記用具を必ず持参すること。積極的な態度で授業に参加すること</p> <p>3 宿題を課すこともあるので、忘れずに取り組むこと。</p>							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	英語的な見方や考え方	表現・処理	知識・理解			
評価の観点の趣旨	出席、取り組み姿勢	日常生活から英語での表現を意識できているか。	自らの表現したい事を適切に英語で表現できるか。	英語表現を含む、英語文化の理解ができているか。			
評価方法	出席、発言 授業への取り組む姿勢	授業への取り組み姿勢 スピーキングテスト	スピーキングテスト ライティング課題	ライティング課題 授業内発表			

教科	選択B	科目	Active English	単位数	2	学年・コース	3年 進学・体育/選択者
教科書	オリジナルテキスト			担当者	ベンジャミン・木俣直美		
概要・ねらい	スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの各分野における英語力の伸長を促す。						
年間授業計画	学期	配 当 時 間	単 元	学 習 内 容			
	一 学 期	4	1 基本の自己紹介の仕方	・自分の情報を相手に伝える。また相手の情報を得る。			
		4	2 基本的な質問の仕方と答え方	・欲しい情報を相手に尋ねて、また相手からの質問に適切に答えを返す。			
		6	3 要約	・重要な箇所を的確にまとめる。			
6		4 旅行英会話	・旅先での、ホテル予約など必要な作業などを学習する。				
		(20)	第1学期中間スピーキングテスト 第1学期期末スピーキングテスト ライティング課題				
二 学 期	6	5 旅行英会話	・旅先での、航空券予約や伝言の聞き方の学習				
	10	6 質疑応答	・いろいろな場面に応じて、必要な受け答えを練習 (家族の説明、医者での会話など)				
	10	7 ライティングの訓練	・ニュースの理解 ・1学期に習ったことをもとに、自分を表現するより長い文章を書いてみる。				
		(26)	第2学期中間スピーキングテスト 第2学期期末スピーキングテスト ライティング課題				
三 学 期	3学期は授業を行いません						
履修上の注意	1 真面目に授業に参加すること。 2 辞書、ノート、筆記用具を必ず持参すること。プリントをそのつど配布するので無くさないようにファイルしておくこと。 3 ワークシートを配布するので無くさないようファイルしておくこと。						
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	英語的な見方や考え方	表現・処理	知識・理解			
評価の観点の趣旨	出席、発言 グループ内での積極的な活動	日本語との表現の違いを理解し、適切な判断ができるか。	自らの表現したい事を適切に英語で表現できるか。	英語表現を含む、英語文化の理解ができているか。			
評価方法	出席、 発言 授業への取り組み姿勢	授業への取り組み姿勢 スピーキングテスト	スピーキングテスト ライティング課題	ライティング課題 授業内発表			

教科	選択B	科目	食物	単位数	2	学年・コース	3年 進学・体育/選択者
教科書	使用教科書なし			担当者	古川なおみ		
概要・ねらい	2年次に学んだ食物の知識・技術を基本にし、食物検定受験をすることで、さらに詳しく調理についての知識・技術を習得する。また、よく目にする加工食品や日本の伝統料理について、調査・研究した上で、実際に調理をする。食品についての知識を習得するために、テーマを決めた調理実習をする。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価基準			
	一学期	2	オリエンテーション	今後の流れを把握し、理解できたか。			
		2	専門学校講師によるデザート実習	今後の進路決定において、専門家から、学ぶことが出来たか。			
		2	手量り・目測・いろいろな切り方実習	調理の基礎実習として、物の重さと分量の目安を理解できたか。また、材料の切り方の技術と知識を理解できたか。			
		1	食物検定4級実技内容練習	食物検定4級の内容を含め、調理の基礎が理解できたか。			
		1	食物検定4級内容VTR	VTR「調理の基礎知識」			
		2	「味噌」調理実習	日本の伝統的加工食品の作り方を理解できたか。			
		2	「だんご」調理実習	「米」を原材料にした加工食品について理解できたか。			
		2	テーマ「米」の調理実習	また、普段食べているものの作り方が理解できたか。米を中心として献立を考え、実習することができたか。《レポート「米」》			
		2	食物検定4級受験	調理・栄養の基礎を理解できているか。			
	2	食物検定3級内容調理実習	食品の特性を理解し、調理の手順を考え、おいしく、見栄えよい調理ができたか。				
	2	食物検定3級受験	1つの料理を作る材料・手順を理解できたか。				
	二学期	2	献立の立て方	いろいろな調理法、栄養のバランスを理解しながら献立を立てる手順が理解できたか。			
		2	「きつねうどん」調理実習	「小麦粉」の調理性、油揚げ、だしの取り方を理解できたか。			
		2	「パン・ジャム」調理実習	「小麦粉」と「砂糖」について理解できたか。			
2		「マカロニグラタン」調理実習	「小麦粉」の調理性のドウとルーを理解できたか。				
2		テーマ「小麦粉」の調理実習	「小麦粉」の特性を生かした調理ができたか。				
2		「ハンバーグ」調理実習	「肉」の特性について理解できたか。				
2		テーマ「肉」の調理実習	「肉」の特性を生かした調理ができたか。《レポート「小麦粉」「肉」》				
2		テーマ別献立作成・調理計画	バランスの良い献立か。調理手順に無駄は無いのか。				
2		文化祭準備					
2		「お弁当」調理実習	「お弁当」に適切な献立・調理法をし、彩りよくお弁当箱につめることができたか。《レポート「お弁当」》				
三学期	2	「日本の行事食」調理実習計画	伝統的な行事食を理解し、自分の生活に取り入れる工夫ができたか。				
	2	「おせち料理」調理実習	「おせち料理」の調理手順を理解できたか。				
	2	「X'masパーティー」調理実習	「パーティー料理」の献立・調理手順を理解できたか。				
3学期は授業を行いません							
履修上の注意							
実習重視の授業です。それぞれの学期ごとに提出するレポート・作品などがあるので、期日を守りきちんと提出をして下さい。またそれぞれの内容を理解した上で実践していきますので、積極的な姿勢で授業に臨んでください。							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	技能・表現	知識・理解	思考・判断			
評価の観点の趣旨	食に対して関心を持ち、食材や調理に対する知識・技術を習得する姿勢と実習に対する積極的態度が見られる。	食材・調理法の知識・技術を習得し、味・栄養・見た目・調理法のバランスを考えた献立を立て、実際に調理をする能力が身についている。	食材・調理法の知識・技術が身についている。	基礎を学び、その場にあった献立を考え、様々な食材に対応した調理法を選ぶなど、食に対しての問題に適切な対応をすることが出来る。			
評価方法	授業の出席状況 授業に取り組む姿勢 レポートの提出	献立レポートの提出 実習に取り組む姿勢 料理の味・見た目のバランス	食物検定受験 レポートの提出	授業に取り組む姿勢 問題解決の方法			

教科	選択B	科目	保育	単位数	2	学年・コース	3年 進学・体育/選択者
教科書	『保育の基本用語』 わかば社			担当者	江波戸純子		
概要・ねらい	乳幼児の特性を理解し、また部屋に季節の飾り付けをするなど実践的な授業を中心にする事で、保育に関する意欲を出させる。また、将来保育士としての役割や子どもに与える影響などを考え、起こりうる問題の予測・問題解決への適切な対応をする能力を養う。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価基準			
	一学期	1	オリエンテーション	これから行う内容を理解できたか。			
		1	『子どもが育つ魔法のことば』について	人に影響を与える言葉を理解できたか。			
		1	紙芝居の読み聞かせ	紙芝居を読み聞かせる方法を理解できたか。			
1		年間行事について	日本伝統の行事について、理解できたか。				
2		折り紙	いろいろな折り紙を折れるようになったか。				
4		「誕生日カレンダー」作成	各月の特徴を生かした誕生日カレンダーができたか。				
4		名札の作成	子どもの興味を引く名札が完成できたか。				
2		子どもの発育について	乳幼児の身体発達の過程を理解できたか。				
2	子どもの運動機能・手遊びについて	月齢にあった遊びを理解し、手遊びを考えられたか。					
2	「指導案」作成	時間配分や指導内容等を考え事前にしっかりと準備できたか。					
二学期	1	オリエンテーション	2学期の内容を理解できたか。				
	2	「園だより」作成	各月の行事を踏まえ、園だよりが作成できたか。				
	17	生徒による授業	指導案の通りに授業を進めることができたか。				
	6	保育園・幼稚園実習	これまで学んだことを実践で活かすことができたか。				
三学期	3学期は授業を行いません						
履修上の注意							
<p>実習重視の授業です。それぞれの学期ごとに提出するレポート・作品などがあるので、期日を守りきちんと提出をして下さい。またそれぞれの内容を理解した上で実践していきますので、積極的な姿勢で授業に臨んでください。</p>							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	技能・表現	知識・理解	思考・判断			
評価の観点の趣旨	乳幼児の特徴に興味を持ち、積極的な姿勢で授業に臨み、制作活動にも主体的な取り組みが見られる。	乳幼児の特徴を理解し、衣・食・安全について配慮し、豊かな感性を育てるよう、表現できる。	乳幼児の特徴を理解し、それぞれの年齢にあった表現方法が身についている。	乳幼児に対しての技法を理解し、様々なタイプの乳幼児に対して瞬時に判断をしながら、適切な対応が出来る。			
評価方法	授業の出席状況 授業に取り組む姿勢 作品の提出	季節の飾りつけ 保育技術検定 模擬授業	小テスト 保育技術検定 模擬授業	授業に取り組む姿勢 問題解決の方法 保育実習			

教科	選択B	科目	検定とプログラミング	単位数	2	学年・コース	3年 進学・体育/選択者
教科書	いちばんやさしいITパスポート]SBクリエイティブ 「Monacaで学ぶはじめてのプログラミング～モバイルアプリ入門編～」アシアル株式会社			担当者	福島 伸一 村山 健介		
概要・ねらい	情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。また、情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。国民的素養になりつつある情報活用能力を「ITパスポート」を通して身につけさせる。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容		評価基準		
	一学期		◆検定「ITパスポート」 2 第1章 企業活動 2 第4章 技術戦略マネジメント 2 第10章 コンピュータシステム 2 第11章 ハードウェア 2 第12章 ソフトウェア 2 第14章 ネットワーク 2 第15章 情報セキュリティ 2 第6章 開発技術 2 第9章 基礎理論とアルゴリズム 2 CBT方式試験		ITパスポート検定を通して、情報に関する科学的な見方・考え方を重視するとともに、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用するための知識を身に付ける。		
	二学期		◆プログラミング「Monaca for Education」 1 第1章 アプリ開発入門 1 第2章 HTML入門 1 第3章 CSS入門 1 第4章 JavaScript入門 2 第5章 条件分岐 2 第6章 関数 3 第7章 イベント 3 第8章 DOM 3 第9章 フォーム 3 第10章 いろいろな演算子 3 第11章 配列 3 第12章 繰り返し		プログラミング言語を学ぶことで、コンピューターやネットワークを活用する知識と技能を身に付ける。様々な事象を、プログラミングを用いてモデル化し、評価・改善することで、生活や社会の中にある問題の発見と解決に取り組む姿勢や論理的な思考力を身に付ける。		
	三学期		3学期は授業を行いません。				
履修上の注意							
ノートはChromebookでとるので、各自タイピングを練習しておくこと。1学期は座学中心となるので、確認テストや提出物で評価をつける。また、2学期のプログラミングでは毎時間の積み重ねで、課題が完成していくので、遅刻や欠席はしないように注意する。							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断		技能・表現	知識・理解		
評価の観点の趣旨	・コンピュータや情報機器を使って情報を統合し、表現することに興味を示し、情報を分かりやすく表現することに関心を示していたか。	・伝えたい内容を分かりやすく表現する為の工夫をする。 ・製作物や情報発信の結果を自己評価や相互評価し、改善を考える。		・プログラムのコードを効率的に表現する技術を身に付けられたか。	・ITと社会との関わりを理解している。 ・情報セキュリティとは何かを理解している。		
評価方法	・授業への出席状況 ・授業への取り組む姿勢 ・課題の作成状況	・授業への取り組む姿勢 ・課題の作成状況		・課題の作成状況 ・授業への取り組む姿勢	・確認テスト ・ノート提出		